平成30年5月18日(金)

経済財政に関する山梨コンファレンス

東京2020年オリンピック・パラリンピックを
契機とする『地域力の向上』

ここちよい体験＝「運動・食・休養が未来を創る」地域交流事例

山梨大学教育学部長・大学院教育学研究科長

教 授　中村 和彦

2020年
東京オリンピック・パラリンピック
ムーブメント ＆ レガシー

山梨大学教育学部長
大学院教育学研究科長
中 村　和 彦

1964年東京オリンピックにおけるレガシー

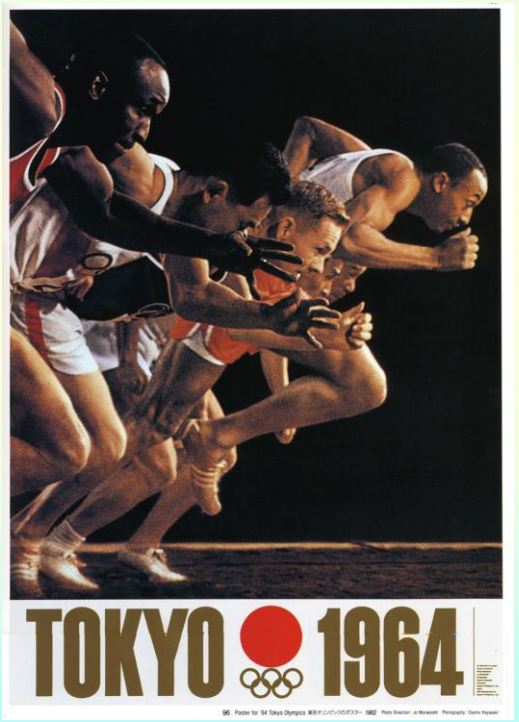
東京オリンピックは、東京という都市と、日本経済の動脈となる重要なインフラ整備を促進するとともに、国民のスポーツに対する関心を高めスポーツを振興するための諸制度の整備に貢献した。

ハード

首都高速道路
環状7号線
東海道新幹線
東京モノレール
地下鉄日比谷線
国立競技場（国立霞ヶ関競技場）
国立代々木競技場
渋谷公会堂
駒沢オリンピック公園
日本武道館
国立総合体育館（代々木体育館）
江の島ヨットハーバー
五輪橋
ホテル
カラーテレビ
衛星放送技術
冷凍食品

ソフト

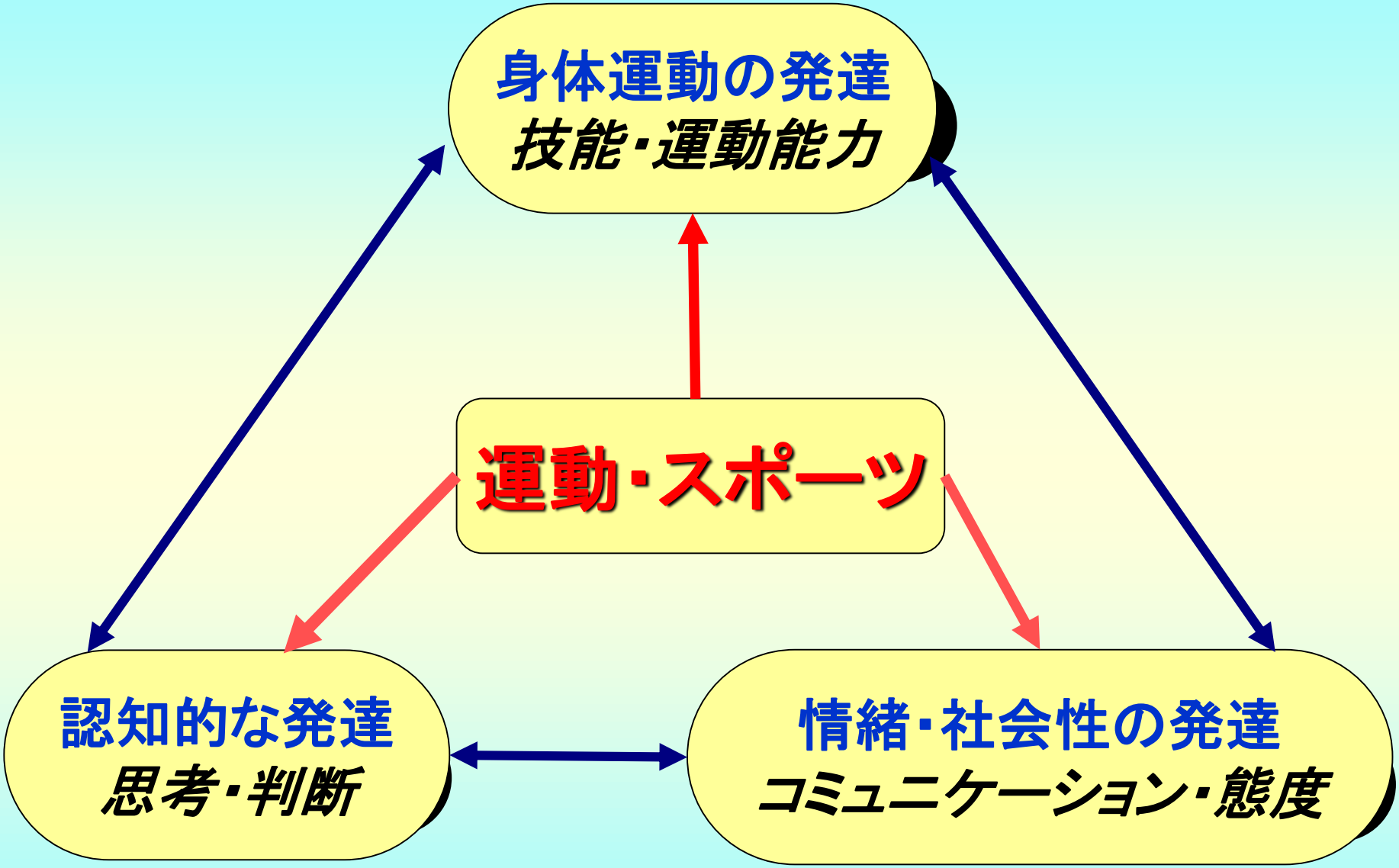
日本体育協会の発足
体育の日の制定
スポーツ振興法の制定
スポーツ少年団の発足
体力・運動能力調査の開始
スポーツ推進委員制度の開始
国際協力機構（JICA）の発足



幼少年期の運動・スポーツは・・・・・

○ 発育・発達途上にある子どもに
豊かな心と健やかな体の育み
をもたらすものであること

○ 成人期以降の
運動・スポーツ習慣の継続
につながるものであること


身体運動の発達
技能・運動能力
運動・スポーツ
認知的な発達
思考・判断
情緒・社会性の発達
コミュニケーション・態度

小学校　高学年

11歳～

言われたことを理解して行うことができる段階

いろいろなスポーツを行う

小学校　低・中学年

10歳～

6歳～

いろいろな運動がうまくできるようになる段階

動きを組みあわせる，
リズムにあわせて動くなど

幼児期

5歳～

3歳～

いろいろな運動ができるようになる段階

走る，とぶ，投げるなど
基本的な運動

乳幼児期

2歳～

0歳

生まれつきできる運動の段階

寝返りをうつなどの反射運動，
座ったり，歩いたりなど基礎的な運動

学習指導要領における

「体育」「保健体育」の考え方

発達の段階のまとまりを考慮する

小学校		中学校		高等学校
１年～４年	５、６年	１、２年	３年	１年～３年
様々な基本的な動きを身に付ける時期	多くの領域の運動を体験する時期			少なくとも一つの運動を選び継続することができるようにする時期

小学校体育科の改善

新学習指導要領

指導内容の体系化

<table>
<tr><th>１，２年</th><th>３，４年</th><th>５，６年</th></tr>
<tr><td colspan="2"><u>体つくりの運動遊び</u></td><td>体つくり運動</td></tr>
<tr><td>器械・器具を使っての運動遊び</td><td colspan="2">器械運動</td></tr>
<tr><td>走・跳の運動遊び</td><td>走・跳の運動</td><td>陸上運動</td></tr>
<tr><td>水遊び</td><td>浮く・泳ぐ運動</td><td>水泳</td></tr>
<tr><td colspan="2">ゲーム</td><td>ボール運動</td></tr>
<tr><td>表現リズム遊び</td><td colspan="2">表　現　運　動</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">保　　健</td></tr>
</table>

低学年は全て運動遊びで

持ち越し効果を視野に入れた
子育て・教育が必要である。

- 学校教育の段階だけで『学び』や『運動』を終わらせてはいけない。
- 成人期以降も、生涯を通して

「おもしろく」「心地よく」「自ら」

学んでいけること、運動していけることが持ち越せる子育て・教育をしていくことが必要である。

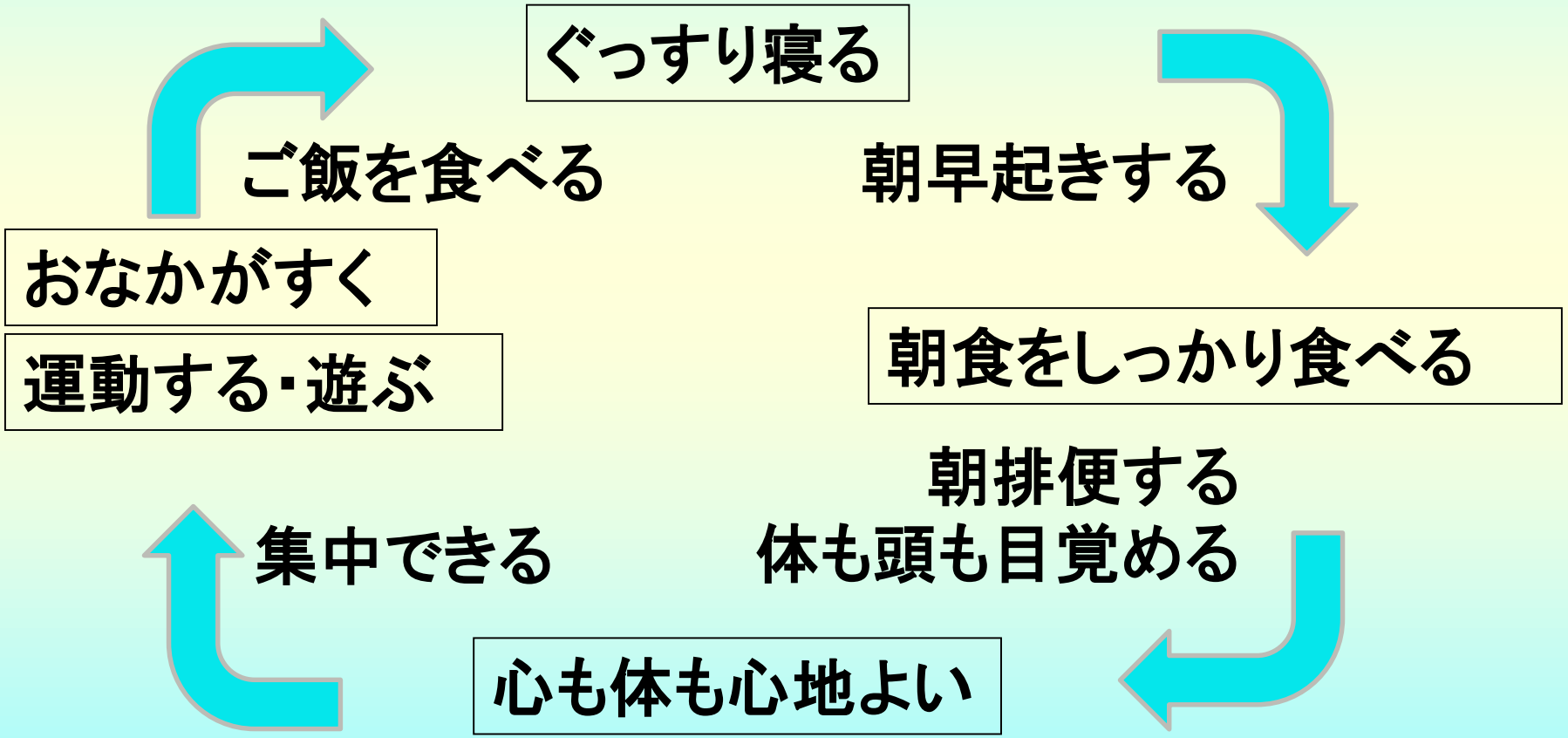
「運動に向かう力」「運動し続ける力」

につながる遊び・運動を！

1. ボール遊び、バットふり、たき火、花火など、あぶない遊びは、やめましょう。
1. 木やさくなどに登ったり、花やえだを折ることは、やめましょう。
1. 園内で自転車に乗って遊ぶことは、やめましょう。
1. は引綱でつなぎ、 は持ち帰りましょう。
1. ごみは、持ち帰りましょう。
1. このほか、ほかの人にめいわくのかかることはやめましょう。

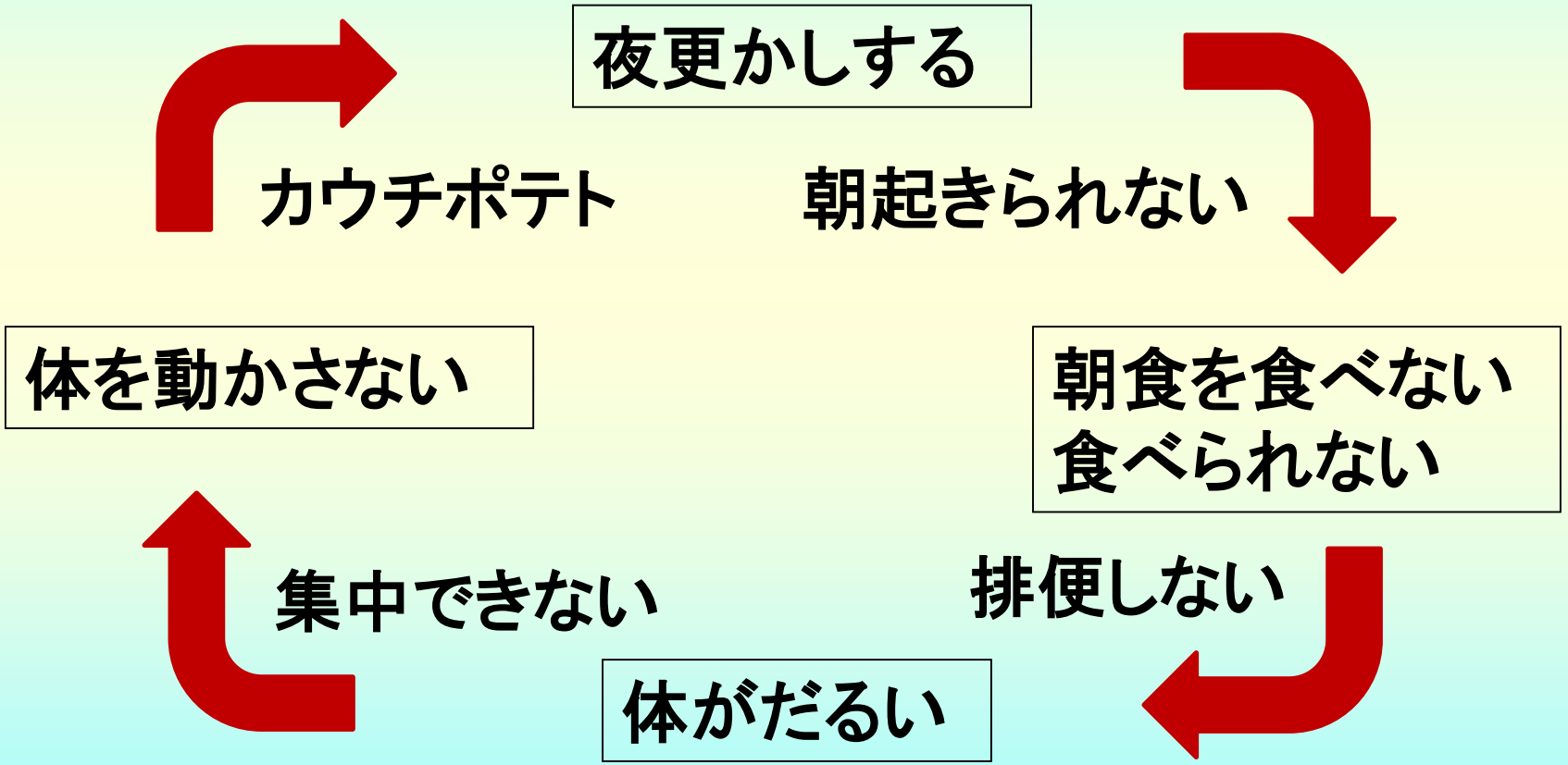
生活習慣は連鎖する

良い連鎖（30年前までの日本）



生活習慣は連鎖する

悪い連鎖（現在の日本）



４つの生活習慣

- 体を動かすこと: ***運動・遊び***
- 食べること: ***食事***
- 寝ること: ***睡眠***
- 排泄すること: ***排泄***

○ 「生理的欲求」 の無いものは？

○ 「快」 という言葉がつけられないものは？

○ 本来総合的に獲得すべき→カッサンドラの会

宮島則子（食事） 神山潤（睡眠） 加藤篤（排泄）

中村和彦（運動・遊び） 瀧井宏臣（子どものライフハザード）

「四快のすすめ」（新曜社）

諸外国の子どもに関する施策に学ぶ・・・・

○アメリカ

・小学生以下の全国大会・ブロック大会の全面禁止
・子どものスポーツクラブは、３種目以上

○イギリス

・UKスポーツ：多種目の運動遊び・スポーツの実施
・トレーニング・練習ではなく、スポーツを楽しむ
・プレイ・ワーカーの養成と実践

○ドイツ

・スポーツ・ユーゲント：地域スポーツでの青少年育成
・プレイ・リーダーの養成と実践

○オーストラリア

・低体力・運動嫌いな子どもへの取組
・コーディネーター／プレイ・デリバラーの養成と実践

2020東京オリンピックムーブメント ＆ レガシー

日本の子どもすべてを元気にする「遊びキッザニア・遊びバイキング構想」

- 幼児・障がいを持つ子ども・運動が苦手な子ども・運動が嫌いな子ども・体力が低い子どもだれもが遊び・運動できる仕組みづくり

日本の子どもすべてに遊びを届ける「プレイリーダー育成事業」

- おもしろくのめり込む遊び・運動を子どもに届け、子どもの成育をみながら、少しづつ身を引いていくことを理解・認識したおとなの育成

遊び時間の充足

時間

遊びの必要条件

3つの間

空間　仲間

仲間の存在

空間の充実

プレイリーダー

あそびを支える プレイリーダー の存在

子ども達が豊かな心と
健やかな体を育むために・・・・・

社会のさまざまな問題を解決するために・・・・・
子どもたちが幸せな人生を送るために・・・・・

「おもしろく･のめり込める遊び」

「深く考え判断する遊び」

「科学的認識を体験する遊び」

「人に優しい気持ちを持つ体験」

「魂の震えと同調を感じる体験」

地域交流事例の提案①

日本一健やかな子どもを育める街・甲府

小学校・中学校・幼稚園・保育園などから、豊かなこころと健やかなからだを育む具体的な情報を発信し、地域や団体が協力・連携した取組を通して、父母・家族が子育てのリテラシーを高め、子どもを育てることの幸せ感をもって、健やかな子どもを育んでいく施策。

親子遊びの連続開催・プレイリーダーの養成・遊べる道路（プレイゾーン）の開放・公園の禁止事項の廃止

地域交流事例の提案②

週末に家族が元気になれる街・甲府

甲府駅周辺の屋内外の施設を有効利用し、親子・家族で思い切り身体を動かして遊び（運動）、美味しく甲州名産の料理や果物を食べ、ワインを飲み（食事）、ゆったりと温泉に浸って宿泊する（休養）という生活習慣の良い連鎖を体験し、家族みんなが元気になれることを県内外（特に首都圏にむけて）発信する施策。

家族遊びイベント・甲州名産の食事やワインの紹介・宿泊施設との連携・・・・

地域交流事例の提案③

こころに人が住める街・甲府

総合市民会館・コラニー文化ホール・県立美術館・県立文学館・県立図書館・市役所や県庁舎のイベントスペース等を有効利用し、「音楽」「美術」「文学」「レクリエーション」などの文化に浸ることで、「心が震える」「ほっとする」体験を重ね、現代社会に欠落しているコミュニケーション能力を取り戻していく施策。

施設間の連携・定期的イベントの開催・広報・・・・・